

15

夜の果物屋よるくだものや

少女は合唱コンクールの練習で遅くなった帰り道を、毎日合唱曲を歌いながら歩いていました。少女が住む団地の入り口には小さな果物屋があり、そこだけ夜でも店を開け、灯がともっています。少女はその明かりに心が落ち着くのを感じました。コンクールが終わったある日、少女は入院見舞いを買いに、あの果物屋に寄ります。

くだものや
果物屋しょうじょ
少女